

協会だより

第31号

平成27年2月2日発行

福岡県立学校事務職員協会

会長の年頭挨拶

「温故知新」

新年、明けましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましては、どのような正月を過ごされたでしょうか。定期監査も終了し、穏やかな新年を迎えられたことと存じます。この協会だよりが発行される頃には入試の受付が始まり、あわただしい3学期のことと思います。昨年の第30号『協会だより』から、「電子データ」での配信に変更しました。事務長会では、すでに電子データでの配信が始まっていたので、これも時代の流れというものでしょう。

さて、平成26年11月21日(金)に「国立オリンピック記念青少年総合センター」で開催された「全国協会理事会」の報告をいたします。また同日、同会場で、全国協会主催の「中堅事務職員研修会」も開催されており、全国から64名が参加しました。本県は昨年同様に4名が参加しました。その報告はこの協会だよりに掲載されていますので一読してください。

- (1) 平成26年7月24日(木)～7月25日(金)に開催された第67回全国大会(岩手大会)の決算報告があり、参加者は781名でした。(昨年は917名)
- (2) この岩手大会では7月23日に特別分科会として『東日本大震災被災地視察』が実施されて全国から78名(本県は2名)が参加しました。特別にバス代を全国協会が補助したもので陸前高田市ほかの視察と被災された職員の体験談がありました。全国協会HPに掲載している「協会ニュース・岩手大会特別号」をご覧ください。
- (3) 岩手大会優秀研究発表者の表彰が功労者表彰内規により選考され、山口県と和歌山県の2本に決定しました。
- (4) 平成27年度68回全国大会は、佐賀市で平成27年7月23日(木)～7月24日(金)の2日間開催されます。3分科会8本の研究発表予定です。第3分科会では就学支援金をテーマとして班別討議を行うことが予定されています。平成18年度には沖縄県で全国大会が開催されましたが、今度、佐賀県で開催されることにより、昭和23年から始まった全国大会ですが九州8県すべての県で開催されることになります。全体会ではミニコンサートが実施されます。本県から多数の会員が参加されますようお願いいたします。
- (5) 全国協会要覧を12月上旬に配布しましたが、それを開くと現在、協会活動を休会している県市会が8団体あります。福島県、栃木県、山梨県、神奈川県、横浜市、新潟県、大阪府、島根県です。全国協会長からは、各県において自助努力をお願いしたいとの報告がありました。
- (6) 全国協会のホームページが11月1日から移行し、会員のパスワードが変更になりました(kaiin2014)。このことはすでに会員の皆様にお知らせしていますので一度開いてみてください。
- (7) 全国大会開催要項を平成27年度から全国協会ホームページからのデータ配信に移行予定です。すでに各県協会でのテストが済んでおります。
- (8) 平成29年度には全国協会創立70周年となります。前回の「60周年記念誌」と同様に作成する方向で検討されています。

なお、本県協会は平成28年度には創立40周年になります。

以上が全国理事会の報告です。

平成 27 年度の九州大会は鹿児島市で 6 月 11 日 (木) から 6 月 12 日 (金) に開催されます。これまでの毎年 8 県の研究発表が 4 県の発表になりますが、本県からは北九州地区事務研究委員会が発表します。研究テーマは『待ったなし世代交代』です。新規採用者が平成 25 年度 18 名、平成 26 年度 24 名と増加して、世代交代が進んでいる状況であり、研究発表を大いに期待しています。

本県の総会は、平成 27 年 5 月 25 日 (月) に福岡リーセントホテルで開催されます。今回から随時監査等のことを考慮した日程に変更しましたので会員の皆様の多数の参加をお待ちしております。

平成 26 年度から導入された、「高等学校等就学支援金制度」に伴い事務処理件数が、平成 27 年度は 2 倍、28 年度は 3 倍に増加することから、本県では、事務長会の「学校改革等に関する検討委員会」及び「事務職員協会各地区実務担当者」で構成するプロジェクトチームを立ち上げました。事務処理の問題点について取りまとめ、県教委への改善策の要望と実務手引書を作成します。

また、『地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律』が平成 27 年 4 月 1 日から施行されます。教育委員長と教育長を一本化した新教育長が置かれること、首長は「総合教育会議」を設けることなど教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化が図られます。

昨年の『協会だより』で、勤務している学校の歴史、校訓等をご存知ですか。と問いかけましたが、どうですか。毎日の業務が忙しくてそれどころではないと考えるので、一步、立ち止まり、勤務している学校の過去を学ぶことで新しい知恵を得ることができるのではないのでしょうか。先輩方の培ってこられた知識、知恵を学び、新しい形で後輩に継承していくことが事務職員にとって大切な役割と思います。

今年度も残すところ、あと 2 か月となりました。入試、卒業式、人事異動等年度末のたいへん忙しい時期を迎えることとなりますが会員の皆様方におかれましては健康に十分留意され、「明るい事務室」を motto に平成 27 年も頑張っていきましょう。

(会長 浜田 富士満)

各地区活動報告

●北九州地区 (会長 桑原 利治)

北九州地区では、業務の改善について研究を行い、また自発的研修を行うことにより、学校間の連携と事務職員の資質、職務遂行能力の向上を図ることを目的として活動しています。

本年度の事業は、「実務研修会」・「地区別研修会」・「パソコン研修会」・「新規採用事務職員等研修会」を実施しています。さらに、活動の充実を図るため、今年度も北九州地区県立学校事務次長・主査会共催による「次世代を担う若者育成塾」を実施しました。これら協会の活動に際しましては、今後も、会員の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【主な研修会の概要】

「実務研修会」は、教職員課から講師を迎え「定期監査結果（諸手当認定）について」「諸手当 随時確認事務について」の研修を行いました。定期監査の結果について、事例をあげていただき、確認すべき点等を説明していただきました。また諸手当の随時確認について規則、通知を確認しながら、詳しく説明をしていただきました。後半は 4 班に分かれ、就学支援金事務について情報交換をしました。各学校での工夫点や困っている点などの情報を共有することができました。日常業務を遂行する上で大変参考になる実務的な内容で、有意義な研修会となりました。



県教育委員会との共催による「地区別研修会」では、前半は、福岡管区气象台より講師を迎え「防災気

象情報とその利用～台風・大雨に備えて～」という演題で講話をしていただきました。後半は、主事から事務長まで、階層を問わず6つの班を構成し、3つのテーマ（若年事務職員への業務継承、不祥事防止の意識向上、学校窓口としての事務室の在り方）から、あらかじめ割り振られたテーマ1つについて班別に討議を行いました。その後、各班の発表者が討議内容を発表し、世代を超えた交流と学校間の連携及び事務職員としての資質向上を図ることができました。

「パソコン研修会」は、1月に県庁 OA ルームを会場に実施しました。日常業務に役立つようワードの差込印刷、エクセル関数及び財務会計システムの EUC について勉強しました。インストラクターによる丁寧で分かりやすい指導で、充実した研修を実施することができました。

今年度も行った「新規採用事務職員等研修会」では1回目は、先輩職員による「給与事務について」「旅費事務について」、事務長講話「仕事の進め方」についての研修後、参加者全員での情報交換会を行いました。2回目も先輩職員が講師となり「授業料事務について」など実務で役立つ内容を中心に研修を行いました。



【各研究委員会の活動状況】

「事務研究委員会」では、採用10年までの事務職員を対象に行ったアンケートの集計や分析を行い研究を進めました。テーマを「待たなし世代交代 ～ハンドブックの作成に向けて～」とし、原稿を完成させたところです。27年度の九州（鹿児島）大会での発表に向けて、さらに準備を進めていきます。

「パソコン研究委員会」ではエクセル、ワード、EUCについて研修会を実施しました。日常業務で役立つ実践的な内容を目指しています。来年度も誰もが参加できる研修を、と考えていますので、今まで参加されたことのない方も奮ってご参加ください。

●福岡地区（会長 満生 順子）

福岡地区では、副会長を新設する等により充実した組織とし、会員相互の連絡・調整をとりながら、会員の資質の向上を図り学校教育の発展に寄与することを目的として、研究と研修を行っています。特に、財務会計の適正な処理を重視して、学校間の連携、職員間の連携を大切にしながら点検等の取組を実施しました。また、事務処理能力の向上と学校運営参画意識の向上を目指して、職員が一丸となって様々な業務を行うため、次の活動を行いました。

【3ブロック別研修会】（福岡地区事務長会と共催で実施）

定期監査等の指導事項等の状況を踏まえ、事務処理内容の相互点検を行い、疑問点についての意見交換・解決策の研究を通して情報の共有や事務スキルの向上を目的にブロック別研修会を実施しました。

①日時 平成26年6月3日（火）～4日（水）各ブロック1日間

場所 各ブロック内の学校 内容 人件費 旅費（県外）

②日時 平成26年8月26日（火）～27日（水）各ブロック1日間

場所 各ブロック内の学校 内容 支出（11・13・14・15・18節）

実施3年目であり、お互いに顔見知りとなり活発な点検、意見交換がなされました。

【監査対策点検】9月～11月に定期監査現地校に出向き点検を実施しました。（延べ46名）

【3ブロック合同研修会】

平成26年11月19日（水）に、就学支援金・奨学給付金・就学奨励費に係る疑問・問題点について班

別討議を行いました。また、県立学校活性化「魅力ある学校づくり」の講話を通じて課題を認識し理解を深めました。

【初任者研修会】

採用1～3年目を対象とした研修会を開催し、市町村からの転入職員を含む15名が参加して実務研修等を実施しました。また、実務自主研修にはスーパーバイザーとして先輩職員が8名出席しました。

〈第1回〉平成26年 7月30日(水) 福岡リーセントホテル 13:00～

事務長講話 2～3年目職員体験発表 グループ討議「実務自主研修について」

〈第2回〉平成26年11月17日(月) 福岡リーセントホテル 13:00～

福岡地区事務研究委員会講話 研究発表(2年目職員による発表 4名) グループ討議

〈第3回〉平成27年 1月21日(水) 福岡リーセントホテル 13:00～

研究発表(2年目職員による発表 4名) 1年目職員による実践発表 グループ討議

すべての研修会に事務長が出席して、グループ討議等においても助言がなされました。

【事務研究委員会】

平成24年度から「施設管理と災害対応について」をテーマに研究を行い、事務室の視点に立った「危機管理マニュアル」作成を中心に今年度九州(大分)大会で発表しました。今後も学校の実情を踏まえて、それぞれの学校に適したマニュアルの完成を目指して研究を重ねていきたいと考えています。

【パソコン研修会】

新しいMicrosoftOfficeへの対応と有効活用を図るための「エクセル2007研修」を行います。

また、パソコンに関するお役に立つ情報を送付します。

【地区別研修会】

平成26年9月12日(金) 福岡リーセントホテル 13:00～17:00 参加者57名

1 グループ討議(13:30～15:00)

「学校の省エネルギーを推進するための課題と対策について」
(内容)

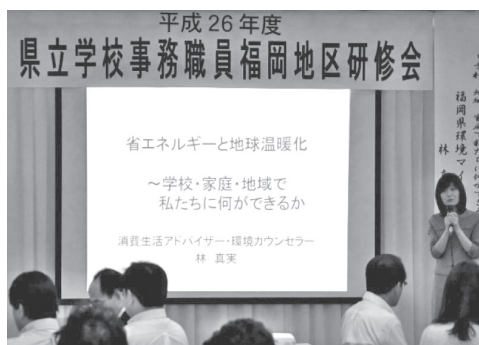
省エネを阻んでいる要因と対策について6班に分かれてグループ討議を行いました。それぞれの学校の現状と課題及びその対策を各自が付箋紙に記入し、班内で討議しながらベスト3を選び、討議結果を模造紙にまとめて発表しました。

2 講話(15:15～16:45)

「省エネルギーと地球温暖化対策～学校・地域・家庭で 私たちに何ができるか」

講師 ふくおか環境マイスター 林 真実 氏

講話の導入として、「①あなたは省エネ・節電に関する知識は高いほう?②あなたの学校は省エネ・節電はうまくいっているほう?」との講師からの質問がありました。参加者全員は自己評価をし、各々の名前を記入した付箋紙を①②を座標軸に分けたホワイトボードに貼りました。この付箋紙の分布は中心部に集まり、「知識はあるほうだが、学校での省エネ・節電は上手くいっていない」学校が多かったことがわかりました。その後数名の学校の現状を聞き、和やかな雰囲気



か講話が始まりました。

(内容)

学校には3つの役割がある。「①施設として②省エネ教育をする場として③地域コミュニティとの関わり」この役割を持っている学校という場所で、地球温暖化・エネルギー問題において、私たちに何ができるかを考えよう。

(1) エネルギー消費と地球環境問題

元々は自然の大気中にあるCO₂のおかげで、地球は程良い環境にあった。近年、エネルギー消費増大に伴い大量のCO₂が排出され、身の危険を感じるほどの気候変動を起している。このエネルギー起源のCO₂が増大していることが問題である。

(2) 日本のエネルギー消費の現状と課題

第一次オイルショックの時から、CO₂削減・省エネに関心が集まり、政府の対策などもあり、工場など産業施設では省エネが大きく進んでいる。一方で、交通機関・家庭・病院・商業施設などでのエネルギー消費が増大している。学校や商業施設などでは、使用者が経費負担せず設置者が負担していること、家庭では、各々の実情に合った対策でなければ効果がでないこと、などがエネルギー消費削減上での課題である。この大量消費をしている部門での省エネ・節電は、達成するとエネルギー消費全体での効果は非常に高い。

(3) 学校の省エネ・節電

学校のエネルギー消費は、電気が7割以上を占めている。不要な照明は点いていないか？必要な時も使用していないか？など、各学校での再点検をしてみてはどうか。

パッシブ手法（日光や通風を利用）やアクティブ手法（効率を考え、捨てるエネルギーを見直す）の視点をもつこと。例えば、窓は採光や通風の確保のため物で塞がない、冷蔵庫は隙間をあけて設置、空調はサーキュレーターと併用するなど同じエネルギーで効率良く、設備を買い換えずに工夫することも大切である。

●筑後地区（会長 尋木 啓二）

筑後地区では、会員相互の連絡・調整と会員の資質向上を図るために、次の研修会・研究活動を行いました。また、実務研修の一環として筑後地区県立学校事務長会との共催で、支部単位で監査現地校事前点検会議を実施しました。さらに、筑後地区5支部において支部研修会を行い、その後懇親会を開催し支部内会員の交流を図りました。

【実務研修会】

平成26年9月10日(水) 九州歴史資料館 参加者43名

1 講義 「旅費事務について」

講 師 福岡県教育庁総務部財務課予算係 事務主査 古賀 道緒 氏

2 講義 「諸手当認定事務について」

講 師 福岡県教育庁教育企画部教職員課給与総務係 主任主事 佐藤 道孝 氏

近年筑後地区では、若手職員が急増し中間層が少ないため、ベテラン職員との2極化という状況であり、若手職員の育成が急務となっています。今年度は若手職員に分担されている傾向が高く且つ監査等で誤りが多い旅費・人件費事務に絞り、担当主管課より講師を招聘して実務研修会を実施しました。

【地区別研修会】

平成26年9月19日(金) 福岡県北筑後教育事務所 参加者43名

1 研究発表

発表者 筑後地区パソコン研究委員会委員長
福岡県立浮羽究真館高等学校 事務次長 長野 浩臣

内 容 「EUC 機能」「ピボットテーブル集計」について

2 課題討議（問題提起・全体討論）テーマ「事務室の課題」

発表者 福岡県立伝習館高等学校 主事 古賀 亮平

発表者 福岡県立久留米筑水高等学校 事務次長 立山 逸男

司 会 福岡県立朝倉光陽高等学校 事務長 田中 利幸

助言者 福岡県立朝倉高等学校 参事兼事務長 江上 貫

財務会計システムからデータを取り出して調査等に活用しようというパソコン研究委員会が提唱する技術普及のための研究発表、発表者の課題提起からの全体討論という形式に変更して2年目の研修を実施しました。課題討議では、部共有フォルダを活用した情報の共有化の提案、部下と上司の人間関係の課題が提起され活発な意見交換がなされました。

【新規採用事務職員研修会】

第1回 平成26年6月24日(火) 福岡県立山門高等学校

内 容 参事講話、文書、サービス、採用2年目職員から学ぶ（意見交換）

第2回 平成26年8月26日(火) 福岡県立山門高等学校

内 容 旅費、収入、学事、人件費、支出（実務担当職員による講義・演習）

第3回 平成27年1月16日(金) 久留米ブリヂストン倶楽部

内 容 新規採用職員による実践発表、講評、情報交換

今年度は研修対象職員が16名と例年にない人数となったため、残念ながら意見交換や実践発表の際には、ひとり一人の自己表現の機会を大幅に減らしましたが、それでも若々しい活気にあふれる良い研修の場となりました。第2回では講師を勤めてくれた実務担当者においても、後輩に教えるという貴重な体験と共に改めて知識・技術の整理ができ有効な研修となったと思います。

【事務研究委員会】

昨年度より研究テーマとして教職員手帳の改訂版「新教職員手帳」を作成する活動を行っています。今年度は完成年度ということで具体的な内容の検討を進めておりましたが、新たな項目として就学支援金制度等を追加しましたので、大変苦勞することとなりました。教職員の職務遂行の基本的事項を掲載し今年度中には完成させたいと考えています。

【パソコン研究委員会】

「集計を楽に」「お役立ちソフトの供給」をメインテーマに活動しています。

まず、「集計を楽に」では、行コミ、財務会計、財産システムから「EUC 機能」を使って取り出したデータをパソコン上で簡単に活用できるように、エクセルソフトの「ピボットテーブル集計」の周知、普及を行っています。昨年度から地区別研修会の一コマとして機能を紹介し利用拡大を図っており、3年間で地区会員全員に知ってもらい、使ってもらいたいと考えています。

また、「お役立ちソフトの供給」は、部共有フォルダの県立学校事務職員協会、03 筑後地区 内に「筑後地区パソ研 テンプレート倉庫」を設け、こんなものがあればみんなが便利になるだろうなと思えるものを作成して、会員にメールでお知らせしています。マイナーチェンジをしているものがあるので、時々覗いてください。筑後地区といわず、どなたでも自由に使ってください。

テンプレート倉庫の在庫の例

起案用紙・年休の計算 Ver.2010.12.21

時間外計算（年間の試算にも対応）
オーバーレイ 授業料 納入通知書
授業料手書納付書作成
福銀入出金伝票（H26 秋から変更に対応しました）

●筑豊地区（会長 田鹿 純）

筑豊地区は 18 校の学校で構成されており、学校教育活動の発展・充実に寄与することを目的として、会員の資質向上を図るために研修並びに研究を行っています。

今年度は新規採用職員 3 人（内 1 人は前年度中途採用）、義務制からの異動者 2 人及び職種転換職員 1 人を迎えて、活発に新規採用職員等研修会が実施されました。

【新規採用職員等研修会】

(1) 第 1 回 平成 26 年 7 月 7 日（月） 飯塚歴史資料館

①先輩事務職員講話

直方養護学校 主任主事 宮島 紗智子
西田川高等学校 参事兼事務長 高瀬 吉次

②新規採用職員等スピーチ 16 人

③飯塚歴史資料館内施設見学

研修当日は、突然の集中豪雨のため飯塚歴史資料館の駐車場が水没し、急遽各自の車を移動させる等のトラブルがありましたが、そのような状況下でも無事予定していた研修を終えることができました。

(2) 第 2 回 平成 26 年 9 月 12 日（金） たがわ情報センター

①パソコン研修会

講師 (株)クリエイティブジャパン 岡本 小百合 氏
エクセル応用（関数・マクロ等）

高度な関数の使用法や、ピポットテーブルを使用したデータ処理方法等を学びました。

②意見交換会

日頃疑問に感じていること等を結論を出すことが目的ではなく、8 人～9 人のグループ 2 班で意見の交換を行い、今後に向けての参考としました。

(3) 第 3 回 平成 27 年 1 月 16 日（金） イイヅカコミュニティセンター

①実務研修 「給与について」

講師 教職員課給与総務係 主任主事 手島 友宏 氏

②職場の健康づくり 「音楽による癒しのすすめ」

講師 音楽療法士 杉本 絵梨 氏

【会計事務相互点検】

今年度の監査実施校に赴き監査期間内の諸帳簿の点検・確認を行いました。

- ・直鞍地区 平成 26 年 10 月 20 日（月）、22 日（水） 直方聾学校、鞍手竜徳高等学校
- ・田川地区 平成 26 年 10 月 20 日（月）、23 日（木） 西田川高等学校、田川科学技術高等学校
- ・嘉飯地区 平成 26 年 10 月 22 日（水） 嘉穂総合高等学校、嘉穂特別支援学校
- ・就学奨励費関係 平成 26 年 10 月 16 日（木） 嘉穂特別支援学校
- ・農場運営費関係 平成 26 年 10 月 21 日（火） 嘉穂総合高等学校



【会計実務研修会】

平成 26 年 10 月 8 日 (水) 福岡県立嘉穂高等学校

①講義 「財務会計事務適正化に向けて」

講師 財務課予算係 事務主査 古賀 道緒 氏

②協議 「質問票の事前集約分等について」

【地区別研修会】

平成 26 年 9 月 26 日 (金) パドドゥ・ル・コトブキ

(1) 講演 「教育現場で勤務する行政職員の人権感覚を育む」

講師 教育庁京築教育事務所 社会教育主事 松中 祥泰 氏

事務室に来る生徒のちょっとした言動に対する気づきが、どれほど大切であるか等、理解しやすい講演でした。

(2) 研究協議 「これからの事務職員に求められること」

発表者

福岡県立嘉穂東高等学校 主事 中村 有介

福岡県立西田川高等学校 主任主事 吉村 由紀子

福岡県立稲築志耕館高等学校 事務主査 山口 史郎

福岡県立直方高等学校 事務次長 白谷 智香子

司会 福岡県立嘉穂高等学校 事務主査 中島 悟

助言者 福岡県立田川高等学校 参事兼事務長 岩奥 正一

時代の変化に伴い、学校事務職員が対応する事案も従前から変化・増大しているが、それに対応する能力をいかに身につけるか、また将来の学校事務職員像はどうあるべきか等が発表され、また活発な意見交換が行われました。



各研究部報告

●事務改善委員会 (委員長 植木 幸隆)

1 平成 26 年度の活動

近年は、新規採用職員意識アンケート調査、事務引継ぎマニュアルー転動したらどうするーというテーマで、調査、研究を行いましたので、今年度の事務改善委員会は、次のような活動を行いました。

まず、前半の活動としては、最初に新たに事務改善の捉え方を会員の職務遂行支援という観点からより良い職場環境づくりに役立つ研修を事務職員協会の主催事業として実施することを検討してきましたが、各地区では地区別研修、実務研修、新規採用職員研修、会計事務研修、さらに会計監査に対する点検会議、支援会議等多岐にわたって実施されておりますので、新たな研修の位置付け、開催時期などで実施に至りませんでした。

そこで本委員会の方向性を事務改善として求められている調査、研究、文書のうち、文書で進めることにしました。その内容は、『業務に関連する通知文書の収集、PDF 化及び保管を行い、会員向けのデジタルアーカイブズ (古文書館) を構築し、同時に保管する』というものです。

しかしながら、収集分野、範囲、作業方法などで業務量が多大になると考えられましたので、今年度は、最初の取り掛かりとして、分野を絞って、自家用電気工作物、消防設備にかかる「標準となる契約書 (案)」の作成を検討しました。

事務改善委員会は会員の皆様に役立つ活動を模索していますので、是非とも本委員会へのご意見、ご要望等を各地区の委員へお寄せください。

また、今後とも当委員会へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

2 活動状況

- (1) 第1回 平成26年10月30日(木) 福岡リーセントホテル
研究テーマの検討及び決定、今後の取り組み
契約書標準型の検討(電気工作物、消防設備)
資料収集 地区別研修会
監査関係資料(点検・支援会議、指導事項)
- (2) 第2回 平成27年1月6日(火) 福岡リーセントホテル
契約書標準型及び収集資料の検討
- (3) 第3回 平成27年2月下旬(予定) 福岡リーセントホテル
契約書標準型(案)作成、収集資料提供方法の検討

●事務提要委員会(委員長 平尾 昌彦)

事務提要委員会は、今年度も委員会の本旨であります提要4編の追録原稿作成を行っております。なお発行は、活動計画のとおり27年4月の発行を予定しております。

6月20日に毎年定例の第1回県委員会を福岡リーセントで行い、地区別担当箇所等を決め、7月・8月、各地区別に精力的に原稿作りに取り組みました。

作業は各地区順調に進み、8月19日、博多青松高校に4地区が原稿を持ち寄り、集約・点検作業を行いました。今年も頻繁に改正がある庶務編等に手こずりながらも、何とか無事に作業を終えることができました。

10月31日、財務課へ原稿を持ち込み、原稿チェックの依頼をしました。

今年度も庶務編のボリュームが多かったのですが、財務課をはじめ、教育庁各課のご協力により、12月25日に全ての原稿が戻ってまいりました。

1月16日、博多青松高校で原稿の手直しを行い、以後、業者に原稿を送り、校正作業を経て本追録の発行となります。なお、今回消費税が5%から8%に上がりましたが、各校支出負担の軽減のため現行の規則等が改正されていないページは5%のままにしていますのでご了承下さい。

「事務提要ライブラリー版」につきましても、平成25年度版は3月29日に更新、平成26年度版も全メンバーで修正に着手し、こちらも5月中には更新したいと頑張っております。なお、「事務提要ライブラリー版」の閲覧方法につきましては、10ページをご参照下さい。

ここで昨年から引き続きのお願いとなりますが、提要委員が希望しましたときは、所属に「一太郎」の購入をお願いできませんでしょうか。ご承知のとおり、行コミパソコンの更新に際し、ライブラリー版原稿の大半を占める一太郎が配備されません。ワードへの切替は、大部分の一太郎派委員にとって既に、技術的にも時間的にも重い負担となっております。作業効率や委員のストレスにご理解をいただきまして、ご協力をお願いしたいと思います。

「文書分類表」の更新につきましては、3月に「D:学事」の部分、5月に「A~C:共通」及び「D:学事」の完全版をライブラリーに登載配布しています。来年度版の作業も同様の日程になると思われます。

分類表の更新作業につきましては、新年度当初の文書事務のための2段構えであること、また、システム上、自力入力であることは致し方のないことと多少の遅れはご理解いただき、今後ともご協力をお願いいたします。なお、先日行ったアンケートを元に新しい文書分類表の制作作業中です。(「A~C:共通」以外)

また、事務提要委員会では、会員の皆様のご意見・ご要望等を寄せていただくため、「め安箱」を協会のスマートページに設置しております。(スマートページ>G教育庁のフォルダにあります。)皆様、大いにご活用下さい。

さらに、委員は多忙な本務の合間を縫って、多くは自分の時間を割いて活動しており各地区の地区委員の皆様にも鋭意ご協力をいただいております。加えて、事務提要委員会の編集等の活動に際しましてご協力いただきました関係機関や事務提要委員の皆様には大変感謝しております。

最後に、会員の皆様におかれましては、今後とも事務提要委員会へのご理解とご協力をよろしくお願いたします。

事務提要ライブラリ版表示方法

The screenshot illustrates the process of navigating to the library edition of the administrative summary. It is divided into four numbered steps:

- ① スマートページをクリック (Click Smart Page): The user is on the main dashboard and clicks the 'スマートページ' (Smart Page) button in the top navigation bar.
- ② [G]教育庁を選択 (Select [G] Education Bureau): In the 'ファイル一覧' (File List) view, the user selects the '[G] 教育庁' (Education Bureau) group from the dropdown menu.
- ③ 事務提要委員会をクリック (Click Administrative Summary Committee): The user clicks on the '事務提要委員会/事務職員協会' (Administrative Summary Committee / Administrative Staff Association) file in the list.
- ④ 事務提要委員会(ライブラリ)をクリック (Click Administrative Summary Committee (Library)): The user clicks on the '事務提要委員会(ライブラリ)' (Administrative Summary Committee (Library)) link in the sidebar.

The final view shows the '事務提要ライブラリ版' (Library Edition) of the administrative summary, displaying a list of documents with their titles, authors, and dates. The list includes items like '県立学校事務提要底務26後編(5章)', '県立学校事務提要底務26前編(1~4章)', and '県立学校事務提要収入26'.

●情報委員会 (委員長 松尾 重治)

1 平成 26 年度の活動

昨年度、検討を重ねて作成したホームページ管理規程(案)は、5月に開催された本協会定期総会で承認していただきました。早速更新したところですが、ホームページは、私達の取組を内外に発信出来るものです。私達の活動を広く知っていただき、また、新たな交流の機会ともなるように期待しているところです。皆様の積極的なご活用をお願いします。

また、昨年度実施したアンケートについて、引き続き検討を行いました。アンケートは、部共有にある情報委員会のフォルダに関するものでしたが、使用実態が明らかになるとともに、多くの意見や要望をいただきました。これを機会にして、共有フォルダだけでなく、行政コミュニケーション(スマートページなど)などがより便利で分かりやすく、また、利用しやすくなるように提言を行いたいと思います。

2 活動状況

(1) 第1回 平成 26 年 6 月 26 日(木) 福岡リーセントホテル

- 平成 25 年度の活動について
- 平成 26 年度の取組について
- ホームページについて

- (2) 第2回 平成26年11月4日(火) 福岡リーセントホテル
- 委員会の活動について
 - アンケート結果の検討について
- (3) 第3回 平成27年2月4日(水) 予定 福岡リーセントホテル
- 経過報告及び今年度の活動について
 - 来年度に向けて

各 研 究 大 会 等

◎福岡県立学校事務職員協会研究発表会並びに総会

開催日 平成26年5月27日(火)
会 場 福岡リーセントホテル

研究発表は、玄洋高等学校の小野尊章事務次長と太宰府高等学校の永田真里事務次長が6月の大分大会で発表される『施設管理と災害対応について ～事務室の視点に立った「危機管理マニュアル」の作成に向けて～』をダイジェストで発表されました。また特別講演では、添田町元副町長の廣瀬喜一氏により、『「サービス業としての公務員について」～学校経営と自治体経営を経験して～』と題したご講演がありました。元学校事務職員でもある廣瀬氏のお話は、大変参考になりました。

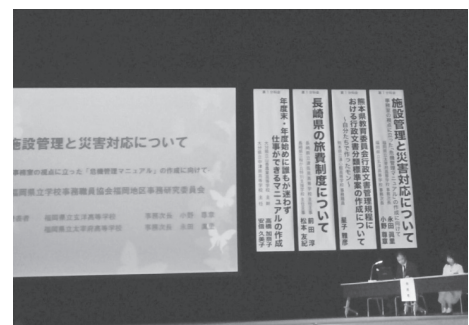
総会においては、昨年度の九州大会で研究発表をされた三池工業高等学校の小田雅子事務長、八女農業高等学校の今津屋修事務主査ほか筑後地区研究委員会の方々、及び旧役員の方、合計6名の方に感謝状をお渡ししました。また浜田会長より新規採用者の紹介が行われました。新規採用の方々は同日夜行われた懇親会にも多数参加され、出水事務局長が出題するテーマに沿ったスピーチ形式の自己紹介は大変盛り上がりました。なお、議案は全て提案どおり議決され、新規に「福岡県立学校事務職員協会ホームページ管理規程」が制定されました。

◎第62回九州協議会研究大会並びに総会

開催日 平成26年6月12日(木)～13日(金)
会 場 ホルトホール大分

今年度の九州大会は大分市で開催されました。九州各県から313名(うち本県から63名)の参加があり、心配された梅雨時の天気は夜に小雨が一時降った程度でした。

研究発表は、玄洋高等学校の小野尊章事務次長と太宰府高等学校の永田真里事務次長が『施設管理と災害対応について ～事務室の視点に立った「危機管理マニュアル」の作成に向けて～』という研究テーマで発表されました。詳しい内容は大会の冊子、又は部共有の次の場所にも保存していますので、ぜひご覧ください。(保存場所：部共有＞15 教育庁＞県立学校事務職員協会＞研究発表)



また特別講演では、ホルトホール大分統括責任者の是永幹夫氏により、「足元を掘れ、そこに泉が湧く！」と題したご講演がありました。是永氏は劇団わらび座で「月刊わらび」編集長、国際部長、劇団代表等を歴任され、手塚プロダクション、スタジオジブリと提携してオリジナル・ミュージカルの制作に関わられたお話は大変興味深いものでした。現在は故郷である大分でお仕事をされていますが、地元に対する想いなども語られました。

功労者表彰では、本県からは9名の方が表彰されました。

総会においては、全ての議案が提案どおり議決されました。

来年度は鹿児島県鹿児島市（平成27年6月11日（木）～12日（金））で開催されます。

◎第67回全国公立高等学校事務職員研究大会、総会

開催日 平成26年7月24日（木）～25日（金）

会場 マリオス（盛岡市民文化ホール）・アイーナ（いわて県民情報交流センター）

今年度の全国大会は岩手県盛岡市で開催されました。全国から781名の参加があり、うち本県からは岩手県を除き最多の62名が参加しました。

研究発表は本県からの発表はありませんでしたが、第1～3分科会で計8本の研究発表がありました。午後からは各分科会で基調講演とシンポジウム、班別討議があり活発な意見交換が行われました。

文部科学省講話では、「高校生等への修学支援について」と題し高校修学支援室専門官の大橋美帆子氏が講話をされました。今年度から導入された就学支援金制度について、その成り立ちや意義についてお話しされ、制度作成側が期待することとして、高校生に国が授業料を負担していることを意識していただき、勉学に励んでいただくことを挙げられていました。

記念講演では、「子供たちの未来のために私たちができること ―世界に誇れる美しいまちの創造―」と題し、東日本大震災で壊滅的な被害を受けた陸前高田市長の戸羽太氏が講話をされました。自らも配偶者を亡くした平成23年3月11日、眼前で起きた生々しい光景を話された際には、涙を流される方もおられました。未だ小学校の校庭に2,000世帯の仮設住宅が残る厳しい現状の中、親や友達を失った子供たちの心の問題に直面し、大人として私たちに何ができるのか真剣に模索し、まちの復興に取り組んでいる様子をお話しされました。

総会においては全ての議案が提案どおり議決されました。

功労者表彰では、本県からは10名の方が表彰されました。

来年度は佐賀県佐賀市（平成27年7月23日（木）～24日（金））で開催されます。



◎県立学校事務職員主事・主任主事研修会

開催日 平成26年7月11日（金）

会場 福岡リーセントホテル

教育庁総務課との共催で、採用2、3年目の事務職員及び義務制からの異動者を対象に研修会が実施されました。若年層の職員に対して、地区の枠を超えた研修を行うことにより、学校間の連携強化及び資質の向上を目的とする研修会で、52名の参加がありました。

・研修内容

1 「事務ミス防止」

講師 株式会社インソース 寺下 嘉美 氏

仕事での事務ミスをできるだけ防止するために、仕事の流れの見直しや適正なチェックの方法などについて、その現状と対策について、班別のグループに分かれて討論し、発表を行う形式での研修が行われました。



2 フリートーク

班別にテーマを決めて自由に話し合うフリートークが行われました。日々の業務を行ううえで疑問に思っていること、困っていることについて、同じ年代の職員と意見交換を行うことができ、短時間ではありましたが有意義な研修ができました。

次回は、平成 28 年度に実施される予定です。

全国公立高等学校事務職員協会特別分科会～東日本大震災から学ぶ～に参加して

鞍手高等学校 事務長 田鹿 純

平成 26 年 7 月 24 日(木) から岩手県盛岡市で開催された第 67 回全国公立高等学校事務職員研究大会において、前日 23 日(水) の特別分科会に参加させていただき感謝申し上げます。

全国協会から岩手県大会の速報が協会ホームページに掲載されていますが、その中に特別分科会～東日本大震災から学ぶ～も掲載されており、すでにお読みになっていることと思いますので、できるだけ重複を避け感想等を述べたいと思います。

陸前高田市街にバスで到着した時、災害復旧に関係する住宅等の高台移転地の丘陵部を整地・整備するために掘削した土砂を搬出する約 120 億円を要したという巨大で長大なベルトコンベア以外はほとんど何もなく、報道等で幾分かの知識はありましたが、広大な更地が広がり夏草の生い茂るだけの現状に改めて驚きました。旧ガソリンスタンドに設置している高さ約 14m の広告塔も津波により破損しており、下から見上げこの高さまで津波が来たのかと絶句状態でした。ガイドの方の説明では、津波は巨大な黒い壁が迫りくる感じだと言っていました。私には「迫り来る巨大な黒い壁」がどういうものなのか想像すらし難い思いでした。旧道の駅、旧市役所、奇跡の一本松を視察しましたが、旧市街のメインストリートにはほとんど何もなく寂寥たる思いに駆られました。

大槌町においては、仮設店舗による商店街、旧大槌町役場並びに蓬莱島を視察し、当地でも被災の跡地は陸前高田市と同様でした。

被災職員による体験談は、実際に体験した人でないと語り尽くせない内容であり、また筆舌し難い話でもありました。たいへんなご苦労や辛い思いをされたことのほんの一部の体験談であったと思いますが、ご親族がお亡くなりになるなどの、つらい思いをされたことに身がつかまりました。

記念講演でも陸前高田市長による被災体験と復興に関する事柄が語られましたが、被災された方々にそれぞれの思い出がありまた思いがあり、そして考えがあることがわかりました。

改めて東日本大震災でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、一日も早い復興を祈念いたします。

中堅事務職員研修会報告

開催日 平成 26 年 11 月 21 日(金)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

若松高等学校 事務主査 出水 秀之(講演)

開会式後、「災害時における学校の役割～学校防災管理と避難所運営の基本～」と題して災害救済ボランティア推進委員会 主任防災教育コンサルタント 宮崎 賢哉氏による講演が行われました。

「防災とは行動が伴うもの、じっとしていても始まらない。災害時にボランティアに参加するだけでいい

わけではなく、防災教育・防災管理こそが大事である。」という話から始まりました。その例として、東日本大震災時における釜石東中学校の生徒らによる避難行動が紹介されました。「釜石の奇跡」として取り上げられていますが、これは奇跡ではなく、防災教育だけの成果でもなく、防災教育と防災管理の双方による必然的な結果であると言えるそうです。普段できないことは災害時にもできない、普段できることが災害時にもできること、その時何ができるかがそれまでやってきたこと、当たり前のことのようですがとても印象に残りました。

防災には防災教育、防災訓練、防災管理がありますが、私たち事務職員の役割は防災管理にあると考えられます。これは“いのち”を守るための学校・地域における防災対策・教員研修等の総称です。学校・教職員としての責任範囲の明確化、児童生徒への指導内容と矛盾しない学校防災マニュアルや職員研修の設定、学校・家庭・地域のつながり構築を積極的・継続的に進めることなどが挙げられます。防災訓練はどこの学校でも定期的に行われていますが、そのような防災管理が完全にできているとは言えません。震災から時間が経ち、防災の事について考える機会は少なくなりましたが、再度考えてみる必要があると思いました。

最後に、この研修に参加させていただき、貴重な経験をすることができました。

ありがとうございました。

宇美商業高等学校 事務次長 喜多 浩之（グループ研修）

グループ研修「災害時における学校の役割―避難所運営ゲーム (HUG) による実践訓練―」について報告します。講師は、災害救援ボランティア推進委員会の主任防災教育コンサルタント 宮崎賢哉 先生でした。HUG とは、避難所・運営・ゲームの略であり、災害発生を想定し、学校が避難所となり避難者を次々に受け入れていくゲームで、進行係が情報を記載したカードを読み上げ、そのカードを学校の平面図に置いていくシュミレーション型訓練でした。因みにカードの大きさは、避難者1人の大きさとなり、カードに記載された情報は、避難者の年齢・性別・病歴・住所等です。その避難者情報を基にして、何階のどの場所に避難させるかを速やかに決定しなくてはなりません。実際にゲームをしてみると、次々と読み上げられるカード情報にベストな決定がなかなかできませんでした。特に、情報内容によっては、盲導犬やペットを連れている方や、認知症を患っている方、高熱を発している方等さまざま、時には旅行中の外国人集団が避難して来たりするのです。本当の災害が発生したときには、以上のようなシュミレーション訓練を事前に行えば、大変役に立つと思いましたが、また必要なことだと考えました。ゲーム終了後のグループ内での反省点としては、事前に避難者情報によってどの場所に配置するかを決めていないと対応できないという事でした。

講師の先生が最後に話されたことは、避難所運営については、事前マニュアルが70%・臨機応変が25%・発想の転換が5%であるということでした。これは、災害発生については、必ず想定外の出来事が次々に起こるためマニュアルだけでの対応は無理があるとのことでした。私自身もゲームをしていて同じ考えを持ちました。大変、有意義な研修を受けることができ、良い経験をすることができました。最後になりますが、このゲームは静岡県が開発したとのこと、興味がある方はインターネットで検索をしていただけたらと思います。

山門高等学校 事務次長 高野 鈴子（グループ研修）

グループ研修は「災害時における学校の役割―避難所運営ゲーム (HUG) による実践訓練―」と題し、午前中に講演された宮崎 賢哉 氏を講師として行われました。

午前7時、最大震度7の地震が発生。参加者は高校事務職員の立場で、勤務校が避難所となりました。いち早く学校に駆けつけましたが、管理職や他の教職員とは連絡が取れず、生徒はまだ登校していません。市役所の担当者もまだ駆けつけることが出来ません。電気、ガス、水道等はストップしています。このような設定で次々と避難してくる避難者に対応しなければならないという状況です。避難者は、男性、女性、

居住地区、高齢者、乳幼児、インフルエンザ感染の恐れがある病人、両親を亡くした子ども、障害者、外国人、認知症の人、ペットを連れて避難してきた人など実に様々です。どの部屋に非難してもらうか迅速に適切に割り振ります。一方、避難所としての本部や受付、仮設トイレや給水車等の配置場所はどこにするか、駐車場をどうするか、立入禁止場所はどこまでとするか等次々と対応を迫られます。それらを机上の校舎配置図に書き込んでいきます。

私は今まで、避難所運営について具体的なイメージを持つことが出来ていませんでした。避難所となっても、市役所の担当者が来てくれればすべて采配してくれるだろうという、甘い認識しか持っていませんでした。しかし、避難所となったら、学校をよく知っている事務職員が対応すべき課題が次々と起こるのです。また、普段しておくべき準備がたくさんあります。全国で次々といろいろな災害が発生しています。避難所指定に関わらず、近隣住民にとって学校は「災害時に頼れる場所」のひとつであり、いざというとき、その信頼に応えることが出来るよう準備・対応が求められています。かけがえのない、ひとりひとりの命を守るため、防災対策を進めることが必要だということを今回の研修で学ぶことが出来ました。

最後に、今回このような研修に参加させていただき、貴重な経験をすることが出来たことについて大変感謝しています。研修の成果を今後の業務に活かしていきたいと思えます。

嘉穂東高等学校 事務次長 江頭 秀俊（文部科学省講話）

文部科学省講話では「特別支援教育の展望」と題して、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課課長補佐 井上 賢一 氏の講話が行われました。

講話の内容は、特別支援教育の現状として、少子化で児童数が減少傾向にある中でも逆に特別支援学校の在籍者数は増加傾向にある。また、通級による指導は、小・中学校の通常の学級に在籍している障害のある子供が、ほとんどの授業を通常の学級で受けながら、障害の状態に応じた特別の指導を特別の場（通級指導教室）で受ける指導形態であるが、障害の中でも学習障害（LD）と注意欠陥多動性障害（ADHD）の比率が高まっているとのことでした。

通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果では、知的発達に遅れはないものの学習面、行動面で著しい困難を示す学習障害等の児童生徒以外にも予備軍が多数いて、それらの生徒がいじめ、不登校にならないよう対応が必要であるとのこと。

学校における支援体制の整備状況では、全体として体制整備が進んでいるが小・中学校の整備が進んでいる一方、幼稚園・高等学校の整備が遅れているとのこと。整備としては、コーディネーターとして特別支援教育支援員を配置しているが、高等学校のみ配置実績が横ばいで推移しており、国としては、地方財政措置で予算措置を行うので高等学校から積極的に配置の要望を挙げて欲しいとのことでした。

次に障害者の権利に関する条例として平成 25 年 6 月に障害者差別解消法が成立し平成 28 年 4 月 1 日より施行され概要は、可能な限り障害者である児童・生徒が障害のないものと共に教育を受けられるよう配慮し、国と地方公共団体は障害のある児童・生徒及びその保護者に対し十分な情報提供を行うとともに、可能な限りその意向を尊重する。また障害者の教育に関し、人材確保・資質の向上と適切な教材等の提供と学校施設の整備及び環境整備を促進しなければいけないとのことでした。

今回、避難所運営ゲームの体験、講話を拝聴することができ有意義な研修となりました。



「^し至^{そく}足^{ゆう}優^{ゆう}游」

「 私達には多くの過去と少しの明日がある 」

林 雅幸 (元嘉穂高等学校参事兼事務長)

平成 22 年 3 月 31 日退職

アメリカン ニューシネマの先駆的存在となり、日本でも人気を博し昭和 43 年に上映されたフェイ・ダナウェイ等の出演の大恐慌時代の銀行強盗映画「俺達に明日はない」を何となく思い出しました。

事務職員協会「協会だより」への原稿依頼に一瞬戸惑いましたが、退職後あまり文書を書く機会もなく近況報告ということでもあったので、自分の頭の体操のために引き受けました。内容的には全く自信がありませんので、皆さんのリラックスの材料にでもなればと思います。

退職した自分にとって、多くの過去と進行中の現在、そして少しの未来があると思いますので、思い出すまま過去からおつきあい下さい。私が事務職員として採用されたのは、新宮高校準備室への転出による欠員補充としての昭和 51 年 2 月 1 日嘉穂農業高校(現 嘉穂総合高校)でした。当時は採用前には学校現場(人事選考委員会)での面接があり、私の外にも面接を受けた方(その後他校に採用され、事務長として退職されました。)がおられました。当時は経験のなかったソロバンがまだ主流の時代であり、苦労しました。庶務・服務・旅費から担当し管財・支出担当の時には、支払いのためにコピーした小切手で練習をし、緊張しながら小切手を切ったことを覚えております。あの時のチェックライラーはどうなっただろうかと、今では懐かしくも感じます。

また、当時は良き先輩がおられ、その方の指導で土曜日(当時は半日勤務)の午後学校に集まり、5~6人で定期的に「福岡県財務提要」の自主勉強会をした思い出があります。その先輩の一言を今でも覚えています。『実務を担当していない君は「調定」という言葉を理解できないと思う。だが、実務を担当したときにこの勉強会で「調定」という言葉を聞いたなあと思出すだろう。そうしたら、財務提要を開き自分でその言葉の意味を調べよう。それでいい、それがこの勉強会の目的でもあるのだから。』

その後、昭和 60 年にひびき荘(現小倉リーセントホテル)にて当時総務課主催の実務(主事・主任主事)研修会の総合司会をすることとなり、二つの分科会の司会者・記録者合計 12 名で事前勉強会・運営打合せ等忙しい中にも充実した日々を送れました。当時の人管・司会者・記録者にて「60 ひびき会」なる会を作り、現職の人は少なくなりましたが、現在も時には集まり酒を酌み交わし楽しい時を持ち来年は 30 周年となります。

私と事務職員協会との関わりは、県立学校事務提要の作成開始頃からです。収入編の地区補助委員から庶務編・支出編・管財編の地区委員、そして最終は事務提要委員会委員長として多くの方々の協力を得て、本当に有意義な勉強をさせてもらいました。特に思い出深いのは、近隣の県立学校には御迷惑をおかけしましたが、ひびき荘での夜遅くまでの一泊編集作業でした。ただし、即実践力となるべき新採者の手引き書として事務提要の作成が図られましたが、私としては新採者が事務提要に頼りすぎあまり福岡県財務提要を見なくなるのではと危惧し、当時の会長さんと意見交換したこともありました。

退職後 5 年目になりますが、最初の 2 年間は妻が働いていたこともあり駅までの送迎、退職時に現業職員の方から貰った料理本を片手に炊事、2 日に 1 回の天気を考慮した洗濯、曜日を決めた室内掃除、退職時に事務室からいただいたジャージと靴での 1 時間の散歩等自分なりに楽しみました。今は体力維持のため週 3 回の地域の保健センター 90 分(歩行・自転車・上下肢パワーストレッチ・ローラーマッサージ等)に通い、菩提寺の檀家総代としての定期的な勉強会(宗教上の作法・歴史・研修)に出席し、今年 4 月に始めたスポーツ吹き矢 90 分(準備体操・姿勢・腹式呼吸法・流れる動作と残心)の受講とその折々に出会う方々との交流等も楽しんでおります。

退職してチョットの未来のうちサッカー W 杯の観戦はクリアーできたので、次は '20 東京オリンピックを目指し、その後は何か楽しみなものをもう少し見つけることができればと思います。特に若い方々は、臆することなくなんでも「やってみて」下さい。そのことによって多くの人たちとのつながりができ、それが大きな財産となるのですから。貴方達には、多くの明日(時間)があるのですから。皆さんの活躍を期待しております。